

日本福祉大学大学院 <履修証明プログラム>

地域再生のための
「福祉開発マネジャー」養成プログラム

科目概要

【2023年度】

2023 年度 日本福祉大学大学院 履修証明プログラム
 地域再生のための「福祉開発マネジャー」養成プログラム

＜プログラム紹介＞

1. カリキュラム

区分	No	科目名	時間数	担当	開講時期(開講予定日)
講義	①	福祉社会開発論	22.5 時間	平野 隆之	6 - 2月 1～15 講 (6/10)
	②	地域再生・女性の起業論	22.5 時間	野田 直人・野田さえ子	6 - 7月 1～8 講 (6/10) 9 - 10月 9～15 講 (9/2)
	③	地域福祉マネジメント論	22.5.時間	平野 隆之	7月 1～5 講 (7/1) 10 - 12月 10～15 講 (10/21)
演習	④	支援のフィールドワーク	22.5 時間	小國 和子	9 - 12月 1～15 講 (9/2)
	⑤	調査方法論(質的研究)	10.5 時間	田中 千枝子	10 - 12月 1～7 講 (10/21)
フィールドワーク	⑥	フィールドワーク (事前学習、FW、振り返り)	22.5 時間	吉村 輝彦 平野 隆之	事前学習 (福祉社会開発論にて) FW (日程調整中) 【滋賀、福岡、長野】 振り返り
課題研究	⑦	課題研究	2.0 時間	全教員 (責任者:平野隆之)	開講式 5/27 [土] (ハイブリッド形式で実施) 課題研究 7～2月 課題発表 2024年3月17日(日)
合計			125.0 時間		

2. 修了要件

1 年間に開講7科目のうち「講義科目」から 2 科目以上、「演習科目」から 1 科目以上、かつ「フィールドワーク(※1)」および「課題研究(※2)」を履修し、修了認定申請をおこない、最終審査に合格すること。

※1: ⑥フィールドワークは、滋賀、福岡、長野のいずれかのプログラムへの参加が必須となります。なお、日程や開催方法は、新型コロナウイルスの感染状況によって変更があります。

※2: ⑦課題研究の最後に開催される、課題の発表+評価 (2024年3月) への参加は必須となります。

3. 今後のスケジュール

- ◆開講式(遠隔) 2023年5月27日(土)
- ◆講義・演習・フィールドワーク 順次開講 2023年6月～
- ◆課題研究指導(日本福祉大学:名古屋キャンパス) 2023年6月 <日程調整中>
- ◆フィールドワーク(滋賀・福岡・長野) 2023年7月～2024年1月<日程調整中>
- ◆課題発表+評価 (日本福祉大学:名古屋キャンパス) 2024年3月17日(日)予定

4. 教務事項の連絡方法について

教務上の連絡は、大学が付与するメールアドレス宛てにおこないます。

必ず定期的にメールをチェックしてください。(go23p[数字3桁]@n-fukushi.ac.jp)

※個人アドレスへのメールの転送設定が可能です。設定方法は「学内システム利用ガイド」を参照してください。

科目名	福祉社会開発論	15講 (22.5時間)
担当者	平野隆之	
テーマ	地域共生社会に求められる福祉社会開発マネジャー	
科目のねらい	<p><キーワード> 地域共生、福祉と開発の統合、場づくり、プロジェクト、マネジメント</p> <p><内容の要約> 本プログラム「地域再生のための福祉開発マネジャーの養成」のための基本となる内容を事例の学習を含めて提供する科目としての性格を持つ。今日国が政策的に推進している地域共生社会の実現のための諸政策を担う人材として、福祉開発マネジャーを位置づけている。</p> <p>福祉社会開発研究として取組んできたフィールドの成果（北海道釧路市、長野県伊那市、滋賀県東近江市、福岡県久留米市などの各都市で展開された開発福祉の方法）を学ぶ。福祉とまちづくり・しごと・生産とを結びつける方法を学ぶとともに、当事者性を地域へと開くための開発福祉の考え方や方法についても理解を深める。</p> <p><学習目標> 福祉のみの学習ではなく、開発・まちづくりの視点を導入することで、新たな開発福祉という方法を習得することを目指す。地域（生活）課題の特性を踏まえ、制度アプローチを越える非制度的な資源開発の実験的な事業の実施にむけてのマネジメントを身に付ける。</p>	
授業の進め方	<p>5つのパートごとに、zoomによる補足の演習を行う予定である。</p> <p>それぞれのパートのなかで、課題研究にむけてのステップアップを図る。</p> <p>第1～3回 「福祉開発マネジャー」のモデルとして、釧路市での日置真世さんの「場づくり師」の取組みから学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『福祉社会の開発：場の形成と支援ワーク』の参考資料（配布） ○（映像教材：対談／日置真世・平野隆之） <p>第4～6回 東近江市の官民協働の福祉社会開発の実践を学ぶ。第1回のフィールドワークの準備を兼ねている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『地域福祉マネジメント』（第8章）および関連資料（配布） ○映像教材：昨年度のフィールドワーク映像も活用 <p>第7～9回 久留米市の取組みを素材とした官民協働の福祉社会開発を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「本業+αプロジェクト」に関する報告集を配布 オンラインによる久留米市フィールドワークの実施の準備 <p>第10～12回 伊那市における福祉社会開発の現場に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○権利擁護・地域福祉・地域づくりの総合的な取組みの関連資料 ○オンラインによる現場実践者による講義 <p>第13～15回 課題研究にいかすために、福祉社会開発に関する学びの振り返り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「メタ現場－研究と実践の協働空間」に関する資料（配布）。 	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>フィールドワークに向けての準備としての学習を示す。</p> <p>映像教材としてのオンデマンド教材をうまく活用すること。</p> <p>課題研究にむけての問題意識やテーマの設定などにも活用すること。</p>	
本科目の関連科目	「地域福祉マネジメント論」「支援のフィールドワーク」	
テキスト	穂坂光彦・平野隆之他編『福祉社会の開発：場の形成と支援ワーク』（ミネルヴァ書房）などからの関連資料等を用いる。『地域福祉マネジメント』も活用する。	
参考文献	参考資料については、参照文献を含んだ資料集を配布する。	
成績評価方法と基準	<p>掲示板への参加度により評価する。</p> <p>他の投稿者へのコメントについても、評価の対象とする。</p>	

科目名	地域再生・女性の起業論	15講(22.5時間)
担当者	野田直人・野田さえ子	
テーマ	日本の地域開発の推進アプローチと、地域再生における女性の起業	
科目のねらい	<p><キーワード> 地域おこし、内発的開発、行政とエージェント、女性の起業、ビジネスモデル</p> <p><内容の要約> 地域の内発性を人的開発と経済開発に結び付ける日本に特徴的な地域おこし・地域再生の成功パターンを理解する。また特にその中で女性の役割や経済的機会、起業方法を理解する。</p> <p><学習目標> 内発性に基ついた地域開発のパターンと、その中で女性の役割を他者に説明でき、各自の現場での応用を構想できる。起業の機会の分析や事業化の方法論の一端を身につけられる。</p>	
授業の進め方	第1回 内発性(地縁によるアイデンティティに基づく) 第2回 エージェント(生産者と市場を結ぶ中間者)の存在 第3回 地域イメージと地域ブランディングによる差別化 第4回 6次産業化 第5回 一村一品の意味と誤解 第6回 よそ者若者馬鹿者の重要性(内部者視点の限界) 第7回 問題分析よりも宝探し 第8回 行政の支援とスーパー公務員(首長) 第9回 地域再生における女性起業家の役割と特徴 第10回 コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスと女性 第11回 事例検証:~事業性と社会性のバランスをどのように実現するか 女性起業家によるビジネスモデルを比較・検証する 第12回 ケーススタディ:ネットワークによるスケールアウト ~女性グループの段階的發展 鹿沼そばの成功の秘訣 第13回 創業シミュレーション①ビジョンと経営理念・ビジネスモデルを創出する 第14回 創業シミュレーション②資金計画と資金繰計画表を作成する 第15回 創業シミュレーション③損益分岐点を見極める	
事前学習の内容・学習上の注意	○地域経済を取り上げるテレビ番組を見ること。特に「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」など。 ○テキストをあらかじめ通読しておくこと。 ○できる限り多くの参考文献に目を通すこと。 ○レポートのまとめ方・小論文の書き方を学んでおくこと。	
本科目の関連科目		
テキスト	特になし	
参考文献	○大和田順子(2011)「アグリ・コミュニティビジネス 農山村力×交流力でつむぐ幸せな社会」学芸出版社 ○金丸弘美(2009)「田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則」日本放送出版協会 ○関満博 松永桂子(2010)「農産物直売所 それは地域との出会いの場」新評論 ○農林水産省中国四国農政局(2007)「まんが農業ビジネス列伝 からり切り開かれる新しい農業の未来(愛媛県) (まんが 農業ビジネス列伝一食と農の未来を拓く挑戦者たち)家の光協会 ○高野 誠鮮 (2009)「ローマ法王に米を食べさせた男 過疎の村を救ったスーパー公務員は何をしたか?」講談社 ○藻谷浩介/NHK 広島取材班 (2013)「里山資本主義」角川書店 ○山崎亮(2011)「コミュニティ・デザイン 一人がつながるしくみをつくる」学芸出版社 ○横石知二(2007)「そうだ、葉っぱを売ろう! 過疎の町、どん底からの再生」ソフトバンククリエイティブ ○油井文江編著(2012)「あなたも社会起業家に! 一走る・生きる十五のストーリー」富山房インターナショナル	
成績評価方法と基準	オンデマンド講義受講および掲示板授業への参加度により評価する。	

科目名	地域福祉マネジメント論	15 講 (22.5 時間)
担当者	平野隆之	
テーマ	福祉開発マネジャーが活用できる地域福祉マネジメントの方法	
科目のねらい	<p><キーワード> 地域福祉、地域福祉マネジメント、制度福祉との協働、重層的支援体制整備</p> <p><内容の要約> 本プログラム「地域再生のための福祉開発マネジャーの養成」における基幹的な科目としての性格を持つ。テキストでは、地域福祉マネジャーを想定して解説が進んでいくが、ここでいう福祉開発マネジャーと類似性を多く持つ。また、以下に示すように、地域福祉行政が想定されているが、民間組織でのマネジメントにも応用可能である。</p> <p>地域福祉の推進に関する基本的な理解を深めるとともに、その推進をマネジメントする方法を学ぶ。組織化的な作業と分析的作業の両面から学ぶ。とくに新たな政策動向である重層的支援体制整備事業の推進におけるマネジメントの内容を具体的に学ぶ。</p> <p><学習目標> 地域福祉を推進し、地域共生を進めるのためのマネジメントの方法を理解する。地域に応じた地域福祉のアセスメントができ、それをもとに事業や計画を推進する方法を習得する。重層的支援体制整備事業の理解を深める。</p>	
授業の進め方	<p>第 1～3 回 地域福祉の基本的な理解 ○地域福祉の推進に関する基礎資料（配布） <オンラインによる解説></p> <p>第 4～5 回 地域福祉の政策化の新たな動向と地域福祉マネジメントの必要性 ○テキスト：地域福祉マネジメントのはじめに・第 1～3 章をもとに、地域福祉マネジメントの考え方や基本機能の理解を深める。 <オンラインによる解説> ○重層的支援体制整備に関する基礎資料（配布） ○第 8 章 事例研究：東近江市のフィールドワークを受けた新たな学びの整理</p> <p>第 6～8 回 地域福祉マネジメントと制度福祉との関係を学ぶ ○第 4 章 介護保険行政と地域福祉行政におけるマネジメントの比較 ○第 5 章 生活困窮者自立制度の機能を高める地域福祉マネジメント <映像教材 4 >を活用した実際の現場の学び <オンラインによる解説></p> <p>第 9～11 回 地域福祉マネジメントと重層的支援体制整備事業 ○新たなテキスト『重層的支援の体制整備と評価活動：地域福祉マネジメントの展開①』を用いた解説①</p> <p>第 11～15 回 重層的支援体制整備事業の評価活動 ○新たなテキスト『重層的支援の体制整備と評価活動：地域福祉マネジメントの展開②』を用いた解説②</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	テキストにある事例についての記述や整理の方法を注意深く学ぶ。オンラインによる演習に参加すること。	
本科目の関連科目	福祉社会開発論、フィールドワーク	
テキスト	『地域福祉マネジメント：地域福祉と包括的支援体制』（有斐閣） 『重層的支援の体制整備と評価活動：地域福祉マネジメントの展開』（有斐閣）8 月刊行予定	
参考文献	永田祐『包括的な支援体制のガバナンス：実践と政策をつなぐ市町村福祉行政の展開』（有斐閣）	
成績評価方法と基準	掲示板への参加度により評価する。 他の投稿者へのコメントについても、評価の対象とする。	

科目名	支援のフィールドワーク	15 講 (22.5 時間)
担当者	小國和子	
テーマ	職場における人類学的なフィールドワーカースキルの活用	
科目のねらい	<p><キーワード> テイクノーツ、自己相対化、ダイバーシティ、「ふつう」、越境、支援の相互作用性、観察者の目を養う、マジョリティとマイノリティ。</p> <p><内容の要約> 本科目では、地方自治体や学校など、さまざまな次元で地域の住民とかかわる現場において、多様なアクターに寄り添う視点と姿勢を養う手立てとして、フィールドワークの実践的な側面に着目し、受講者それぞれの業務やボランティアなど日常的な場面での活かし方について、共にアイデアを出し合いたい。 まずは担当教員から出される簡単な「お題」に応じて意見交換を行うことからスタートし、「支援一被支援関係」「観察者」「マジョリティー・マイノリティー」「わたしたち」などいくつかのキーワードを切り口に、受講者それぞれの日常的な「現場」での出来事を振り返る。 そしてその後、教科書の事例も素材に加えながら、受講者それぞれが直面する実務課題にひきつけて議論を行う。受講者からのリクエストが出た場合、本の著者をゲストに交えてのオンライントーク機会を設ける。</p> <p><学習目標> ・自分が働く職場、あるいは自分が暮らす生活の場で活かせるフィールドワークのエッセンスを理解できる。 ・なかでもダイバーシティというキーワードで多様な人々の共生が目指される昨今、陥りがちな課題を把握し、自らがチェンジエージェントとしての一歩を踏み出せる。</p>	
授業の進め方	<p>本科目では開講月から毎月、月ごとのディスカッション掲示板上でやり取りを行う。毎月1回は書き込むことを全員が心がけることで、「場づくり」にご協力ください。進捗は、各月の掲示板の書き込みを「全スレッド表示」や「全文表示」で確認できる。</p>	
	<p>ステップ1：受講者および講師の自己紹介 この科目は、一見、各自の日常業務と関係なさそうなタイトルで、とっつきにくいかもしれません。でも、議論したいことは、各自が職場や日常生活の自己一他者関係でどんな「配慮」をしているか、どんな風に人の声を解釈しているかといったことと、近年よく耳にする「ダイバーシティ」「多様な人々の共生」といったことをつなげて考えてみることで。 このため、まずは、受講している皆さんが、日頃、特に情報収集や対人援助などの現場シゴトに関連してどんなことに関心をもっておられるのかを知りたいです。できるだけ、受講する皆さんの具体的な興味に引き付けた議論を展開したいと思いますので、まずは自己紹介からお願いします！</p>	<p>開講月の nfu.jp ディスカッション掲示板 (後から参加する場合も、自己紹介は「開講月の」掲示板へどうぞ)</p>
	<p>ステップ2：お題やキーワード、経験や教科書をめぐる意見交換。 ステップ1で出された皆さんの関心や情報を踏まえ、毎月、「お題」を提供する予定です。後半は、下記の教科書を議論の素材として紹介していきます。クイズ番組、あるいはトーク番組に参加するような気持で、ご自身の経験や感じたことを書き込んでください。</p>	<p>毎月の nfu.jp ディスカッション掲示板 +必要に応じてオンライントーク機会</p>
<p>ステップ3：振り返り ステップ1→ステップ2を終えた後、プログラム終了までに、各自、振り返りを書き込んでください。</p>	<p>毎月の nfu.jp ディスカッション掲示板</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>○指定する参考図書の「まえがき」と「あとがき」、できれば補論を一読しておいてください。 ○開講したらディスカッション掲示板で自己紹介をおこなってください。</p>	

本科目の 関連科目	フィールドワーク
テキスト	<p>本科目の後半では、議論の幅を広げ、理解を深めてもらうために、以下の指定文献で書かれているメッセージを議論の素材として紹介し、それをきっかけに意見交換を展開していきます。</p> <p>●清水展・小國和子(編)(2021) 『職場や学校で活かす現場グラフィー：ダイバーシティ時代の可能性を拓くために』、明石書店。 (簡単な紹介文：この本は、日頃の実務をちよつと違う視点から見直したり、マジョリティーマイノリティー間の関係性について考え、実践していく上で役立つエッセンスを紹介しています)。 以下に、朝日新聞の関連サイトで本書の紹介コラムがありますのでまずはこちらをご覧ください。 https://book.asahi.com/jinbun/article/14330089</p>
参考文献	<p>●小國和子・亀井伸孝・飯嶋秀治(2011) 『支援のフィールドワーク』、世界思想社。 (簡単な紹介文：もともとこの科目のテキストとして利用していましたが、絶版となり、入手ができなくなりました。この本は、特に福祉や開発での対人援助など、支援―被支援関係や他者へのサービスを提供する仕事に関わっている人とともに、「支援とは何か」を考えるための国内外のフィールドワークエピソードを紹介しています。入手し難いので、関心のある方は個別にお尋ねください(決して、ネットの高額古本販売に手を出さないでください!!)。</p> <p>●松村圭一郎(2020)『はみだしの人類学 ともに生きる方法』NHK 出版 文化人類学って何？自分とどう関係あるの？という人におすすめの一冊。悔しいけれどテキスト指定した担当教員の本より断然こちらが読みやすく、薄く、安価です。とりあえず気が向いた時にこれだけ入手してこの科目に臨んでもらうのもあります。</p>
成績評価方法 と基準	ディスカッションへの参加度(100%)で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。

科目名	調査方法論（質的研究）	7講（10.5時間）
担当者	田中千枝子 日本福祉大学質的研究会	
テーマ	福祉開発マネジャーのための質的調査研究法	
科目のねらい	<p><キーワード> 現場研究 質的調査法 アクションリサーチ 質的データ収集 質的データ分析</p> <p><内容の要約> 福祉開発マネジャーの福祉開発業務に必要なアクションプランに結び付けることができる、方法としての質的調査研究の基本を身に着けるための学習プログラム。業務や自己のフィールドワークによる調査データによる調査プロセスの講義と演習を行う。論文作成や理論生成のためではなく、実践に直結するアクションリサーチという調査法をもって質的研究の基本を、実例を使って演習形式で学ぶ。</p> <p><学習目標> 1 地域における福祉開発手法としての質的調査方法が理解でき、そのデータ収集および分析手法を、アクションプランに応じて選択し、実際の調査を計画の上で実行することができる。 2 目的をもって自らの実践地域や組織をアセスメントし、その目的に見合った形で、質的調査法を用いたアクションリサーチを実施できる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 現場における質的調査の意味とアクションリサーチ オリエンテーション zoom</p> <p>第2回 質的研究の実際 授業動画第1回 田中「スモン」研究紹介 受講</p> <p>第3回 自分の「問い」を作ってみよう 自分の研究紹介・相談 zoom</p> <p>第4回 自分の「問い」を検討しよう 各自の研究紹介・相談 zoom</p> <p>第5回 質的研究法の概要Ⅰ 講義 zoom 相談 討論</p> <p>第6回 質的研究法の概要Ⅱ 講義 zoom 相談 討論</p> <p>第7回 質的研究発表検討会 zoom</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>○指定した資料と自分の研究を合わせて学習すること</p> <p>○各自がイメージする実践現場での福祉開発における問題意識と解決像に関するアイデアや試みについて、イメージしてメモをしておくこと</p> <p>○研究倫理上の問題として、実際のデータを扱う場合はとくに、個人情報の漏えいに留意すること</p>	
本科目の関連科目		
テキスト	『社会福祉・介護福祉の質的研究法 実践者のための現場研究』 田中千枝子編集代表 日本福祉大学質的研究会 中央法規出版 2013年	
参考文献	開催回ごとに提示する	
成績評価方法と基準	掲示板授業への参加度（80%）、発表・提出レポート（20%）の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	フィールドワーク（事前学習+FW+振り返り）	15講（22.5時間）
担当者	平野隆之、吉村輝彦	
テーマ	地域再生のマネジメント	
科目のねらい	<p><キーワード> 地域づくり、拠点・ネットワーク形成、担い手、マネジメント</p> <p><内容の要約> 地域福祉と地域づくりの融合および重層的支援体制整備事業の取組みがみられる東近江市と久留米市に着目し、オンデマンド教材による事前学習、フィールドワーク、および振り返りを行い、課題研究の基礎とする。なお、オンラインでのフィールドワークも含め、もう1つか所を想定し、合計で3か所とする予定である。</p> <p><学習目標> ① 地域福祉と地域づくりの融合の取組みにおけるマネジメントの機能を理解する。それぞれの担い手が多機能性を発揮する人材育成の方法を学ぶ。 ② さまざまな取組みのプロセスを学ぶことで、外部者あるいは内部者として地域にどう関わればよいのかのヒントを得る。 ③ 先端的な取組みに触れることにより、自らが地域に関わる意欲や発想を高める。</p>	
授業の 進め方	<p><事前学習> 1) 福祉社会開発論の講義のなかで、多様な実践事例を紹介するなかで、フィールドワークによる学びの意味を深める。4か所のフィールドワークに関連した映像教材についても、学習の対象に加えている。 2) 想定している3つのフィールドワークに関連した文献を、掲示板に随時掲載するので、それらをもとに、事前学習を行う。できるだけ映像教材の追加を行う予定である。</p> <p><フィールドワーク（zoomの場合を含む）> 第1～3回のフィールドワークの実施（zoomの場合を含む）に際しては、提供されている資料と現場での情報提供をもとに、フィールドワークの記録をとるとともに、学びの内容を整理しておく。なお、フィールドワーク数は、事情によって変化する。</p> <p><振り返り> 振り返りについては、福祉社会開発論のなかで行う課題研究のzoom指導のなかで実施する。フィールドワークでの学びが、課題研究にどのように生かすことができるのか、その点での振り返りの機会としても活用する。</p>	
事前学習の内容・ 学習上の注意	フィールドワーク①～③の掲示板で教材等の提供を随時行う。その他のフィールドワークが可能となった場合には、その他のフィールドワーク④において提供する。	
本科目の 関連科目		
テキスト	関連資料および視聴覚教材（福祉社会開発論や地域福祉マネジメントで視聴覚教材を含む）	
参考文献	<p>日本福祉大学アジア福祉社会開発センター編『地域共生の開発福祉－制度アプローチを越えて』（ミネルヴァ書房） 清水展・小國和子編著『職場・学校で活かす現場グラフィー』（明石書店） 平野・穂坂・朴編訳『地域アクションのちから－コミュニティワーク・リフレクションブック』（CLC）</p>	
成績評価方法 と基準	<p>掲示板授業での討論参加度（30%） フィールドワークにおける話し合いへの参加度（40%） レポート（30%） 以上により評価し、全体で60%以上を合格とする</p>	

科目名	課題研究	9.5 時間
担当者	全教員（平野隆之・吉村輝彦が適宜コーディネーター役を務める）	
テーマ	福祉開発や地域福祉・地域再生などへの各自のテーマの追求	
科目のねらい	<p><内容の要約> 受講生それぞれが自己の実践現場の課題解決を目指して研究テーマを設定し、講義・演習・フィールドワークで得た知見を踏まえて、考察しその成果を発表する。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 福祉開発や地域福祉・地域再生に関わる自己の問題意識を明確に定式化する。 ② 論理的な方法にしたがって課題解決への道筋を描き出す。 ③ 上記の成果について説得力あるプレゼンテーションを行う。 	
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> ① 福祉社会開発研究の科目のなかで実際される zoom でのセッションにおいて、各自の問題意識等の情報交換を踏まえ、定期的（概ね月 1 回）に継続して、課題研究のアドバイスを行う。 ② 当科目掲示板には全受講生・全教員（実務家教員を含む）がアクセス可能となっている。 ③ 掲示板では、受講生同士の意見交換（ピア・レビュー）を重視し、要望ないし必要に対して、それぞれの課題に適した教員がコメントする体制をとる。 ④ 2022 年 3 月の課題研究発表セッション（参加必須）において、成果を発表し質疑に答える。 <p>注 1：「課題の設定」は、各自の実践現場の問題に取り組むことを原則とするが、受講生の職場の性格やその他の状況に応じて、必ずしも自己のフィールドにとらわれず、たとえば本プログラムのフィールドワーク対象地域（東近江市、久留米市）を取り上げてテーマにしてもよいし、いわゆる「フィールド」には直接根ざさない、やや抽象的な地域再生課題を自ら設定してもよい。</p> <p>注 2：「課題発表」の形式は自由とする。たとえば、自身のフィールドの課題を解決するアクションプランの提案、自身のフィールドを分析する新たな枠組みの提示、あるいは設定したテーマについての小論文の発表、自己の課題に照らして適切と思われる地域再生事例の動画編集、現場の福祉開発人材育成のための研修プログラムの作成等々が考えられる。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	課題研究の方法等について、積極的に掲示板で質問を行う。	
本科目の関連科目	提供されているすべての科目。なお、福祉社会開発論の講義と並行して実施する。	
テキスト	なし。	
参考文献	個別の課題に対応して、適宜アドバイスする。	
評価方法	<p>掲示板での討論参加度（30%）</p> <p>課題発表（70%）</p> <p>以上により評価し、全体で60%以上を合格とする。</p>	

